

I 水産物の価格動向

1 総論 ～全般的に「前年並みから高め」～

- 全般的には、「前年並みから高め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症による影響は昨年では少し残っていたが、今年に関してはほぼ影響はなくなっている。
- ウクライナ情勢の動向によってはロシア産水産物に影響を受ける可能性がある。
- 水揚量の減少や原料の高騰などにより、水産物の価格が全般的に「前年並み」から「高め」の傾向となっている。

2 水産物の価格の見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	まだい(養殖)	水揚量減少のため
2	まぐろ(脂身)	良品が少なく、脂がある漁場に入札が集中したため
3	いか	冷凍物の漁獲量の減少や、諸経費の増加のため
4	甘えび	ロシア産の搬入量が少なく、大型サイズを中心に品薄感が強い。また、業務向けの需要が高いため
5	かき	特に広島産の生産量が今年は少なく、大型サイズを中心に全般的に品薄傾向。鍋シーズンを踏まえて高値傾向が続く見込み
6	数の子	原料が高いため生産量が少ない
7	すじこ	秋サケの水揚量が少ない影響
8	伊達巻き	原料高騰

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	あじ	天候等に左右されるものの水揚量がやや少なめ
2	まだい(天然)	天候等により水揚量がやや少ない
4	ふぐ	海水温度が高く、へい死(突然死)が多いため
5	ブラックタイガー	大型サイズを中心にアメリカの買いが強く、為替の円安傾向も合わせてやや高値の相場
6	塩ざけ	秋サケの水揚げが昨年比70%と少なかった
7	酢ダコ	原料は前年とほぼ変わらないが運賃やその他の経費分値上げ
8	たらこ	今年度の原料の搬入が少ないため
9	めんたいこ	今年度の原料の搬入が少ないため
10	かまぼこ	原料高騰

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	サバ	前年並みの水揚量
2	ぶり(天然)	前年並みの水揚量
3	ぶり(養殖)	前年並みの水揚量
4	はまち(養殖)	前年並みの水揚量
5	かれい	前年並みの水揚量
6	まだら	前年並みの水揚量
7	煮ダコ	前年並みの水揚量

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目(価格下落が概ね1割以下のもの)

1	いくら	ヒネ在庫(長期保存在庫)があるため新物がでない。
---	-----	--------------------------

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目(価格下落が概ね1割を超える見通しのもの)

1	まぐろ(赤身)	量販店の取り扱いが減少したため。 また、水揚げされる割合が赤身中心のため
2	タラバガニ	昨年の相場が異常な高さだったが、今年は平年に近い相場のため

II 野菜の価格動向

1 総論 ~全般的に「前年並みからやや高め」~

- ・全般的には、「前年並みからやや高め」の傾向となっている。
- ・玉ねぎは夏場の高温による作柄不良、出荷量の減少により高め。現在北海道産が主力の時期なので、九州産が出回り始めるまでは高値が予想される。
- ・11月中旬までの高温により前進出荷の傾向が強くキャベツやほうれんそうは年末年始に品薄となることが予想される。
- ・さつまいもやだいこんなど今年は台風等の影響がなく、生育が順調となり前年並みの価格となる品目が多くなる見込み。

2 野菜の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目(価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの)

1	たまねぎ	夏季の高温、降雨の影響により今期の生産量は減少しているため
2	ねぎ	夏季の高温による生育不足が目立つ
3	かぼちゃ	輸入品に関しては、円安の影響で平年より高値で推移

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	キャベツ	11月中旬までの高温により前進出荷傾向 年末年始は昨年より荷が少ない予想
2	春菊	前進出荷傾向 12月中旬より不足感が出てくる恐れがあるため単価は上がる見込み
3	ブロッコリー	11月下旬からの急な冷え込みによる影響で、出荷がやや遅れる見込み
4	ほうれんそう	11月中旬までの高温により前進出荷傾向 年末年始は品薄傾向の予想
5	トマト	各産地とも出荷遅れ気味、年末に向けて大玉中心に出荷増の見込み
6	里いも	数量調整のため、各産地出荷制限をしているため不足感がある
7	えのき	他の野菜の価格高の影響による需要増のため
8	本しめじ	他の野菜の価格高の影響による需要増のため
9	三つ葉	暖冬傾向で出荷の調整が難しくなる（前進出荷）ことと、産地の人手の確保が難しくなっている

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	小松菜	前進出荷傾向ではあるが、年内までは順調出荷の予想
2	レタス	入荷量は前年、平年をやや下回るものの不足感はない
3	なす	作況は良いが、原油価格の高止まりにより、各産地ともハウスの加温は控え気味に運用している
4	くわい	台風の影響もなく、夏場の高温が心配されたが、特段大きな問題はなく順調
5	さつまいも	台風等の影響はなく生育順調
6	だいこん	生育期の天候がよく、生育順調
7	にんじん	台風の影響なども無く、各産地豊作傾向で年末にかけても出荷は順調の予定
8	ばれいしょ	夏季の高温や降雨の影響で生産量が少ない見込み、九州産の出回り具合にもよる
9	やつがしら	作柄良好も年々生産者の減少が続いており、それに伴い作付面積も減少している
10	れんこん	出荷は順調で、出荷量は昨年並みの予想
11	生椎茸	生産量減に伴い需要も減少だが相場は安定
12	エリンギ	需要を見ながら、メーカーが生産調整をしており相場は安定
13	舞茸	需要を見ながら、メーカーが生産調整をしており相場は安定

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	はくさい	育成期の天候が順調（高温傾向）のため生育順調、年末年始も数量は潤沢の予想
2	ピーマン	12月前半までは順調出荷で単価安で推移しているが、九州産地が年末に向けて出荷の谷（端境）に入る予想のため現状よりは単価が上がる予想だが、前年と比較してもあまり変わらない
3	ごぼう	7～9月の生育期は順調で作付面積も昨年に比べて増加しているため

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	きゅうり	天候不良による生育不足等の影響が大きかった昨年に対して、今年度は生育順調で前進出荷傾向
---	------	---

III 果物の価格動向

1 総論 ～全般的に「やや高めから高め」～

- 全般的には、「やや高めから高め」の傾向となっている。
- 夏季の高温の影響により初期の出荷には不良などが散見されたが、秋以降は天候回復、安定のため発育も良く相場は落ち着きを見せている。
しかし、厳冬期に向け施設の加温のための重油価格高騰による加温不足などが懸念される。
- 国内産果実においては、夏場の高温の影響による生産量の低下や出荷の遅れが散見している。また、輸入果実は円安の長期化による仕入単価の上昇が継続的になっている。

2 果物の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	柿	今年度は、甘柿がカメムシ、炭疽病などの被害が大きいのも影響し、平年比80%程度の出荷
2	バナナ	入荷量は前年並みだが、円安の影響のため他国への出荷が増加していることで、単価は高く推移する見込み
3	レモン	主要産地のアメリカ産は産地の長雨により単価高で入荷減の予想 ※円安の影響もあり

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	いちご	産地からの出荷予定が1週間から10日ほど遅れる見込みで、年末の入荷量が少ない見込み
2	オレンジ	オーストラリア産バレンシアが入荷減となり、アメリカ、トルコ産は1月より入荷開始予定のため オーストラリア産ネーブルは単価で前年比115% ※円安影響もあり
3	グレープフルーツ	トルコ産は12月上旬より入荷開始しているがイスラエル産の入荷が未定のため入荷量が減少傾向 ※円安影響もあり
4	みかん	表年（豊作傾向）も小玉傾向で箱数は少ない出荷予定 年末に向けて数量が減少し単価も上がる予想
5	りんご	夏季高温による影響により数量減 大玉、中玉果中心で年内は単価が高めの推移予想

(3) 前年と比べて同程度の品目

該当品目なし

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

該当品目なし

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

該当品目なし

IV ガソリン・灯油の価格動向

- ・原油価格については、大きな変動はないと思われるが、原油価格高騰対策の基準価額等が変更されたため、ガソリン・灯油ともに値上がりしている。
- ・灯油の配達価格は、配送コストが上昇しており、1缶（18リットル）当たり100～200円程度値上がりしている。
- ・年末年始のガソリン・灯油価格は、中東情勢に大きな変化がない限り現在と変わらない予想。

		今年の価格（対前年）	年末年始の見通し	在庫
1	ガソリン	高め	変わらない	十分にある
2	灯油	高め	変わらない	十分にある